物理チャレンジ組織委員会　プレスリリース　2006 年　第１号

平成１８年４月１８日
物理チャレンジ組織委員会
委員長　北原　和夫

第３７回国際物理オリンピック派遣日本代表の決定について

物理チャレンジ組織委員会（委員長：北原和夫（国際基督教大学））は、第 37 回国際物理オリンピック（期間：2006 年 7 月 8 日～17 日　開催国：シンガポール）に派遣する日本代表 5 名を決定した。（別紙派遣代表名簿・委員長コメント参照）

国際物理オリンピックは、1967 年にポーランドのワルシャワで第１回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的として、毎年開催されている。2005 年にスペイン・サラマンカで開催された第 36 回大会（http://www.ipho2005.com/）には、72 カ国から 350 名以上の生徒の参加があった。わが国は今年、第 37 回シンガポール大会「IPhO2006」（http://www.ipho2006.org/）に初めて 5 人の日本代表を派遣する。

今回日本代表となった 5 名は、100 年前のアインシュタインの業績を記念して国連総会で決議された「世界物理年 World Year of Physics 2005」であった昨年 8 月、「国際物理オリンピック」の形式に則り日本で初めて開催された物理コンテスト「物理チャレンジ 2005」（応募者：282 名　選考通過による参加者：100 名　会場：岡山県青少年教育センター閑谷学校（岡山県備前市））において優秀な成績をおさめ、その後派遣代表候補として、5 ヶ月間に渡るインターネットや郵便を利用した研修ののち、先月 3 月 21 日～24 日に行われた 3 泊 4 日の合宿研修（会場：大学セミナーハウスおよび東京工科大学（東京都八王子市））による最終選考を経て決定された。

今後は、国際物理オリンピック参加に向けて、大学ならびに高校教員による研修を継続し、7 月の国際大会に臨む。出発前日の 7 月 7 日（金）に都内あるいは成田空港にて結団式を行う。

なお、今年の全国大会「物理チャレンジ 2006」の参加者は現在応募受け付け中。

＜問い合わせ先＞
物理チャレンジ組織委員会事務局
東京都千代田区北の丸公園２番１号
財団法人日本科学技術振興財団内
E-Mail：physchal@jsf.or.jp
URL:http://www.phys-challenge.jp

別紙

第 37 回国際物理オリンピック「IPhO2006」派遣日本代表　名簿

氏　名	フリガナ	性別	在学校（所在地）	学年
田中　良樹	タナカ　ヨシキ	男	麻布学園麻布高等学校（東京都）	3 年生
谷崎　佑弥	タニザキ　ユウヤ	男	西南学院高等学校（福岡県）	3 年生
野添　嵩	ノゾエ　タカシ	男	ラ・サール高等学校（鹿児島県）	3 年生
疋田　辰之	ヒキタ　タツユキ	男	洛南高等学校（京都府）	3 年生
村下　湧音	ムラシタ　ユウト	男	灘高等学校（兵庫県）	1 年生

※　以上 5 名　氏名 50 音順

物理チャレンジ組織委員会　委員長　北原和夫（国際基督教大学）コメント

今年初めて日本から高校生を国際舞台に派遣することができ、大変嬉しく思っています。一昨年の韓国、昨年のスペインでの物理オリンピックにオブザーバー参加して実際の様子をつぶさに見て、これが単なる競技に留まらず，むしろ、参加した高校生が科学への関心を共有する者同士としての国際的なネットワークを作る素晴らしい機会であるということが分かりました。そのような機会を日本の若者たちに与えることを、長い間怠っていたことを強く反省させられました。今回の派遣代表の生徒さんたちは，昨年物理チャレンジでの５時間にわたる課題の取り組みの中で、また先日の派遣候補者の合宿のなかで、物理学の深い洞察に到る力を発揮してくれました。是非，今度は国際舞台で新たな飛躍の経験をしてきて頂きたいと思います。